

SPECIAL INTERVIEW

フェムテックという名の旗の下に 幸せの連鎖を生み出そう

2021年の新語・流行語大賞にノミネートされるなど、注目度が高まっている「フェムテック」。

女性一人ひとりの健康課題を解決するだけでなく、性差による不平等や労働人口の減少といった社会的課題に対応する手段としても期待が寄せられている。

フェムテックの本質を知り、その未来を考えるため、ラジオ番組「はじめよう!フェムテック」(ニッポン放送)のパーソナリティーを務める伊久美亜紀さんに話を聞いた。

中澤仁美=文 佐々木信行=写真

ライフスタイル・プロデューサー
企業コンサルタント

伊久美亜紀 *Aki Ikumi*

「フェムテック」でパーソナリティーを務める伊久美亜紀さん。ベネッセコーポレーションのメディア総編集長として長年活躍してきたが、現在はさまざまな機会をとらえてフェムテックのことを発信する立場でもある。

「ベネッセコーポレーションなどが共同企画して2021年10月に始まった番組で、プロデューサーが友人だという縁もあり、パーソナリティーに起用していただきました。視聴者層は老若男女幅広く、この番組をきっかけにフェムテックを知ったという声も少なくありません」

毎回ゲストを招き、フェムテックについて多角的に取り上げる番組構成が特徴。医療従事者、政治家、俳優、アーティスト、女性の健康に関わる企業の担当者など、多彩なゲストを交えてフェムテックについて考えてきた。

「フェムテックはFemale(女性)とTechnology(テクノロジー)を掛け合わせた造語で、『女性が抱える健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービス』を意味します。だからといって、単に製品やサービスを紹介して終わり……では不十分。女性が抱える健康課題について語り合い、よりよいライフスタイル

を見出す方向へ導いていくことが、こそが肝心だからです。女性が幸せになることで男性も幸せになり、ひいては社会全体の幸福度が高まっていく……。そんなメッセージを全国にお届けしたいと考えています」

番組開始当初、フェムテックの認知度はかなり低く、国民全体で約2%というデータもあったほどだという。伊久美さんは、そうした状況から現在に至るまでフェムテックの普及啓発に尽力してきた。フェムテックがもたらす価値は、伊久美さんをここまで衝き動かすほど大きなものなのだろうか。

「多くの女性は『健康に関するモヤモヤ』を日常的に抱えていても、仕事や子育てなどに忙殺されてしまい、病院を受診するほどではないから……と我慢してしまいがちです。そうしたモヤモヤをテクノロジーで解消しようとするのがフェムテックであり、これは『一人で抱え込まず頼っていいんだよ』と女性に向けて発信することと同義ではないでしょうか。こうした流れが広まっていけば、パートナーや周囲の人と悩みを共有し、時に頼り、支え合うといった意識の醸成にもつながっていくはずですよ」

女性が幸せになることで男性も幸せになり、ひいては社会全体の幸福度が高まっていく

健康に関する「モヤモヤ」を一人で抱え込むのはやめよう

「大きさに聞こえるかもしれませんが、フェムテックは社会全

体を前向きに動かしていく、想像以上に大きなムーブメントだと思っんです」

快活な口調でそう話すのは、ラジオ番組「はじめよう!フェム





Aki Ikumi

伊久美亜紀

ライフスタイル・プロデューサー、企業コンサルタント。大学卒業後、レタスクラブやハースト婦人画報社の編集部を経て、1995年～2022年までは、ベネッセコーポレーション発行のメディア総編集長として『たまひよ』『サンキュ!』『いぬのきもち』など年間約100冊の雑誌・書籍・絵本の編集責任者を務め、2023年に独立。30歳の長女一人。

「愛だよ、愛。」をモットーに、互いに慈しみ合い、褒め合える社会を目指したい



報面で企業のコンサルティングにも挑戦しています。独立を決意した理由の一つは、『これからの時代の編集者像』を後輩たちに身をもって示したかったから。紙媒体の需要(needs)が減り、編集者を取り巻く状況は厳しくなるといわれています。しかし、読者のneedsだけでなくWantsまで掘り下げ、それを満たす情報を最適なたちで表現して感動を生み出すという貴重なスキルは、どんな場面でも役立ちます。だから、きっと未来を切り拓けるはずなんです」

本気で健康と向き合ってきたIHTAの思いに共感

フェムテックについて発信するだけでなく、自身もしなやかに変化しながら、よりよい社会のために動き続ける伊久美さん。IHTAの印象を尋ねてみると、思いがけない答えが返ってきた。「マネージャーのシノハラノリコさんを『はじめよう!フェムテック』のゲストにお招きしたこともあり、IHTAのことはよく知っていますよ。あのときは、チャイルドボディセラピストの話題で盛り上がりました。赤ちゃんの発育や心地よさにつながるマッサージが、それを行う家族の側の癒しにもつながるというお話

社会が正しい方向へ動き出すその確かな胎動を感じて

働く女性として第一線で活躍し、同時にシングルマザーとして女の子を育て上げた伊久美さん。フェムテックの重要性が理解された状況振り返ると、隔世の感があると述べ懐する。「私は出版社に勤めながら28歳で出産したのですが、当時は育児と仕事の両立を堂々と主張できるような雰囲気ではありませんでした。一つの会社に限らず、社会全体がそうだったと思います。肩身の狭い思いをすることもありましたが、働く女性に対する理解が少しずつ進み、社会的な空気が徐々に変わっていったことを肌で感じられた気がします」

いまだ男女平等が実現でき

ていないシーンは多いと指摘しながらも、伊久美さんの表情は明るい。

「差別やハラスメントを規制するルールも整備されてきて、社会が本当に変わり始めようとしています。今もつらさを抱えている女性はいると思いますが、世の中が全体として正しい方向へ動こうとしていることは間違いない、まずはそういう認識を持って前を向くことが大切ではないでしょうか」

また、伊久美さんは女性向けメディアの編集者として、女性ならではの悩みや健康課題に向き合い続けてきた経歴を持つ。妊娠・出産期を支える『たまごクラブ』、そして育児情報を発信する『ひよこクラブ』はその代表例で、両誌は2023年に創刊30周年を迎える。

「両誌には『いろいろと不安はあ

っても、やっぱり喜びのほうが多い!』というメッセージが流れ、妊娠・出産や育児には普遍的な要素が多いことから、それは昔も今も変わりません。ただ、10年前に創刊した『妊活たまごクラブ』は少し毛色が違っていて、『赤ちゃんが欲しくなったら最初に読む本』と位置付け、パートナーと一緒に未来を考えながら共に妊活に取り組みむという視点を大切にしてきました」

女性だけが悩みを抱え込むのではなく、パートナーと手を取り合って前進するというイメージを、雑誌づくりを通して社会に浸透させてきた伊久美さん。実は、今年ベネッセコーポレーションを退職し、キャリアの大きな転機を迎えている。

「現在は複数の出版社でアドバイザーを務めるほか、人事や広

が印象深かったです。また、心身の健康、予防医療、ウェルビーイングといった考えを基盤に活動されていく団体だと知り、IHTAとフェムテックは親和性が高いと感じました」

フェムテックを単なる一時の流行と誤解されないよう尽力してきた伊久美さんにとって、IHTA会員はエンバシー(共感)を覚える存在だという。「それは、健康課題というものを上っ面であらえず、真正面から取り組み、本気で努力を続けてきた方々だからです。私が女性の生き方というものに向き合ってきた姿勢と、似ている部分があるのではないかと思っています」

確かに、その通りだ。「私から皆さんに何か言えることがあるとすれば、誰かのために頑張るからこそ、たまにはちょっと立ち止まり、自らを振り返る機会をつくってほしい。あえて一人になって映画を観たり本を読んだりするのは至福の時間で、自らの本心や本来の目標が見えてくるものです。こうして頑張っている自分を慈しみ、いたわることも、時には必要ではないでしょうか」

あるのではないかと思っています」

確かに、その通りだ。「私から皆さんに何か言えることがあるとすれば、誰かのために頑張るからこそ、たまにはちょっと立ち止まり、自らを振り返る機会をつくってほしい。あえて一人になって映画を観たり本を読んだりするのは至福の時間で、自らの本心や本来の目標が見えてくるものです。こうして頑張っている自分を慈しみ、いたわることも、時には必要ではないでしょうか」

自分を愛せる人は、周囲の人にも歩みを進めたい。どこかフェムテックにも通じる考え方であり、伊久美さん自身も「愛だよ、愛。」をモットーに活動を続けていくということだ。「フェムテックが浸透していき、いづれは日本が『褒め合える社会』になったら素敵だなと、いつも考えています。心身の健康の大切さを皆が理解し、互いに慈しみ合える世の中に近づいていくことこそ、私が最も実現したい夢なのかもしれません」

フェムテックを後押しする一人の発信者として、そして社会課題の解決に挑む一人の実践者として、伊久美さんはこれからも歩みを進めたい。

株式会社ベネッセコーポレーションのメディア総編集長として伊久美さんが携わってきた雑誌の数々。女性の生活や健康に関するものが多く、時代ごとのニーズをとらえ、新たな文化を発信してきた。2023年10月に30周年を迎える『たまごクラブ』『ひよこクラブ』では、「30年の子育ての物語」と題してキャンペーンを実施中。また、『サンキュ!』の公式サイトでは、「はじめよう!フェムテック」の放送内容を記事化して掲載している。

INFORMATION

『はじめよう!フェムテック』
毎週・土曜日15時50分～16時にオンエア。
聴き逃しは『radiko』で(※首都圏にお住まいのかたは放送後1週間)お聴きになれます!
<https://39mag.benesse.ne.jp/theme/watalab/#femtech>

